

<h1>月報</h1>	<p>日本キリスト改革派 横浜中央教会</p>	<p>2016年10月2日 10月号</p>
-------------	-------------------------------------	------------------------------------

教会教育研修会の役割とお知らせ

K. T

毎年11月の第2主日の午後に行われている東部中会の教育委員会主催の研修会は、今年で第8回を迎えます。この研修会の前身はCS教師の研修を目的としていたものだったようですが、現在は全信徒を対象に教会における様々な観点からとらえた「教育」について考え、学んでいくための改革派信徒のための研修会という位置づけとなっています。

特にここ数年は、改革派の教師を講師としてお迎えし、聖書から学ぶ「教育」について詳しく講演をしていただきました。講師と演題は以下の通りです。

- ・2014年 川杉安美教師（綱島教会牧師）
「託されている祝福と責任—聖書の教える教会教育—」
- ・2015年 長田詠喜教師（新所沢伝道所牧師）
「共に学び、共に教える喜び—改革派の教会教育—」

昨年、一昨年と講演内容は製本され全信徒に配布されましたので、読んでおられると思います。さて、今年度は、山梨栄光教会牧師の村手淳教師の講演で「契約の視点から見た教会教育」という演題でお話を伺います。大人から子供に対しての教育という観点からみますと、日ごろ子供たちに教えているCS教師はもちろん子をもつ親にとっても学びの時となると思いますが、それだけではなく教会の一員である自分が教会の中でどのように教育され成長していくのか、あるいは他者との関わりの中で聖書の教えに沿って教育し成長させていくことを、「契約」という神学の観点で学ぶことは大切な事柄だと思います。教育される、教育するというと硬い感じがしますが、私たち教会員は何歳になっても聖書の御言葉によって『教えられ、生まれ、日々新たに』成長していく信仰の集まりです。

さて、大人だけではなく子供もメインに考えているのがこの研修会です。会の始まりでは、新座志木教会の杉山昌樹教師に子ども中心礼拝をお願い致しました。説教は「アブラハム物語」の中からされることになっています。この子ども中心礼拝の説教も毎回申会内の教師に依頼しています。昨年は、青葉台教会の山村貴司教師、一昨年は坂戸教会の片岡正雄教師の説教でした。こちらもちがう教会の牧師の味のあるお話を聞くチャンスです。さらに、講演会中には分後を行い、保護者の方々がじっくり講演を聞くことが出来るように計画しています。しかも、分後も中会内の様々な教会のCS教師に担当をしていただき、教師自身がお互い学びあえること、また、他教会員同士お互いの交流ができることなどを大切なポイントとしてこの研修会を位置づけています。今年度の担当は以下の通りです。

・幼稚科：南浦和教会 ・小学科下級：花小金井教会 ・中級：綱島教会 ・上級：湘南恩寵教会 ・中学：坂戸教会です。いろいろなCS教師の分級も楽しみです。東部中会主催の研修会です。どうぞ今から御計画のうちに入れて、ぜひ御参加下さい。

会場：東京恩寵教会（東横線代官山駅下車徒歩3分）です。

企画委員会として 増築記念感謝会（仮称）について

U. I

皆様、こんにちは

立石牧師、新井長老を中心とした建築委員会の働き、また資金を寄せて下さった方々、建築会社の方々、そして「神様のお働き」により横浜中央教会の増築が進んでおり感謝です。新しい木材の香りは毎週朧されますね。

増築に関しては何度も襲い掛かる困難や話し合いもありましたが、こうして現実形になり、最初から見守ってきた皆様も安堵されているのではないのでしょうか。

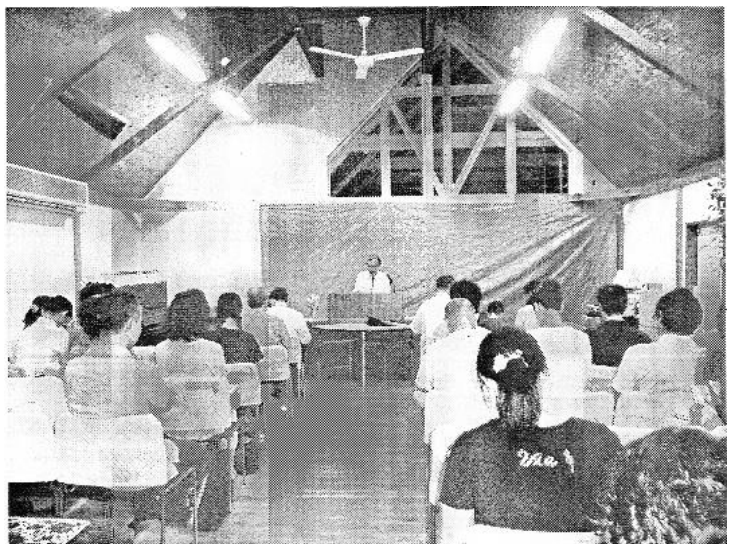
さて、増築が完了し新しい教会にも慣れ落ち着いた頃か払巴われますが、11月27日（日）午後、お昼を兼ねた感謝の会をもちたいと全面委員会で話し合っております。新築お披露目とは違い、会員と関係者で過ごす小さな会を考えております。

お弁当を皆さんと典に食べ、そのあと感謝のお話や、讃美歌や聖書の箇所を読んで2時間程度で終了と企画しています。お弁当は、松原商店街のマグロ解体ショーで有名な魚幸さんの手巻き寿司弁当をと考えています。後日ご希望者の人数をお聞きします。

何事もひとつ形にしようとするには、人間の勝手な思いでは進みません。私も半世紀（！！）生きてきて、自分なりに困難にぶつかる度に思い通りにしようと悪戦苦闘し、結局は思わなかった別の道を歩んでいます。でも振り返ると別の道を歩み無駄に思えたことが、現在の自分を作り上げていると気付き、「神様はちゃんと考えてらっしゃるんだな～」と思うのです。いつもいつも初めから正しい道を選べない私に忍耐して引き戻して下さる神様の愛を感じます。

今回の増築では様々な意見が出て、ぶつかり合いもありました。資金調達でも何度も困難がありましたね。それぞれ考え方が違うので空中分解するかと思った時期もありました。

ひとつひとつ解決に向かうよう進めて下さる神様は、そうした人間の考えを辛抱強く見守って下さり、その先の神様の用意された結末までを導いて下さっているのですね。何年か経った頃、振り返ってまた感慨深く思いを馳せることがあるんだろうな～と思いつつ月報を書いています。



覚えること、継承すること

I. K

先月、従兄弟や叔父など身近な身内 15 人ほどで、ささやかな記念会を催しました。それは、今年が、すでに 22 年前に召天した、母の実姉（私にとっては叔母ですね）の生誕 100 年にあたったので、それを記念して従兄弟 5 人と企画したものでした。私達にとってその叔母は、今に至るも、思い出すたびに気もちが温くなる特別な存在です。

叔母は、私達一家を除くと身内の中で唯一のクリスチャンでした。戦後、1940 年代後半に私の母と共に、偶然出会った路傍伝道（時代を感じますね！）のメッセージを聴いて、教会に通うようになり、二人揃って受洗へと導かれたのです。ちなみに私の父も全くキリスト教とは縁のない家庭で育ったので、同じような経緯で叔わられたそうです。余談ですが、その当時の教会は伝道に燃えていて、ご近所の教会同志が盛んに路傍伝道をするので、縄張りのように、ここからはうちの伝道場所、お宅はそっち側！といった具合に、揉めないように地域を分け合っていたり、決して皆が豊かな時代では無かったにも関わらず、礼拝では献金袋が二周回る（笑）など、活気に満ちていたそうです。世にいう戦後キリスト教ブームといわれた時代の出来事ですが、この世代である、現在 80 代以上のクリスチャンの方々はやはり、今だに強い伝道スピリットをお持ちのような印象があります。

1994 年に叔母は召されました。その数年後、やはり身内で記念会を持ったのですが、その時初めて、生前に叔母が書き遺した日記の一部を公開しました。そこには「〇月〇日、今日は〇〇ちゃんが旅行から帰る日。天気にも恵まれ、さぞ、楽しかったことだろう。」といった、外科医の手術ミスで股関節に傷害が残り、生涯独身で、ほとんど家の敷地から出る事なかった叔母が、「さぞ、〇〇だろう」といった言葉で、離れている私たち甥や姪の喜びや痛みをいつも覚えて、日々の暮らしぶりについて思い巡らし、祈っていてくれていた様子が沢山記されていました。叔母は、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」（ローマ 12:15）という聖書の言葉を真に実践していた人だったのだなあ、と思わされたことでした。自分にとって引き継ぐべき大切な信仰者の姿でした。

さて、この叔母が生まれたのは、1916（大正 5）年。第一次世界大戦の真最中。もう社会科の年表の世界ですね。この世代の方々は、特に先の太平洋戦争を大人として経験した世代です。ちなみに私の父母世代（いわゆる昭和ひと桁）は、疎開世代で、多くは、現代でいえば、小、中学生時代に戦争を経験した世代です。母によればこの差は実は大きく、大人としてあの戦争を経験した世代は、やはり戦争というものに対する責任感が、子どもとして保護されていた立場だった母たち世代とは違うそうです。これは母が、白身が利用しているデイサービスで出会う 90 代の方々に接している中からの実感だそうです。そして、本当に残念なことに、あと少しでこの匪代の方々の生きた証言を聴くことが出来なくなってしまいます。

受け継ぐべき信仰や、スピリットを大切に、神様の御計画によってこの時代に遣わされた責任を果たす者となりたく強く思います。